

再評価結果（平成22年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課

担当課長名：深澤 淳志

事業名 <small>くしろなかしべつ</small> 釧路中標津道路 一般国道272号 <small>あれきない</small> 阿歴内道路	事業区分 一般国道	事業主体 国土交通省 北海道開発局			
起終点 自：北海道川上郡標茶町東阿歴内 至：北海道川上郡標茶町北片無去		延長 5.4 km			
事業概要 釧路中標津道路は、釧路市を起点とし、標津町に至る延長約100kmの地域高規格道路であり、釧路・根室圏の拠点都市である釧路市と中標津町、標津町を結び高規格幹線道路網を補完する規格の高い道路網を形成します。このうち阿歴内道路は、釧路中標津道路の一部を形成する標茶町東阿歴内から同町北片無去に至る延長約5kmの事業であり、地域ネットワークの構築により線形不良や冬期の視程障害等地域課題の解消とともに釧路・根室圏域内の連携強化を図り、物流効率化の支援や個性ある地域の形成、円滑なモビリティの確保に寄与することを目的としています。					
H17年度事業化	H一年度都市計画決定 (H一年度変更)	H19年度用地補償着手	H19年度工事着手		
全体事業費	約52億円	事業進捗率	58%	供用済延長	1.8 km
計画交通量	6,200台/日				
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 2.0	総費用 (残事業)/ (事業全体) 21/52億円 (事業費：20/51億円) (維持管理費：1.1/1.1億円)	総便益 (残事業)/ (事業全体) 42/63億円 (走行時間短縮便益：25/38億円) (走行経費減少便益：11/17億円) (交通事故減少便益：5.3/7.8億円)	基準年 平成21年	
感度分析の結果 残事業について感度分析を実施 交通量変動：B/C=2.3(交通量+10%) B/C=1.7(交通量-10%) 事業費変動：B/C=1.8(事業費+10%) B/C=2.2(事業費-10%) 事業期間変動：B/C=2.0(事業期間+0年) B/C=2.0(事業期間-0年)					
事業の効果等 地域の特殊性を考慮した便益 ①冬期の視程障害解消による走行性向上効果 ・吹雪による視程障害が解消され走行速度が改善される効果【約0.80億円※】 ②余裕時間の短縮による効果 ・当該道路の整備により到着予定時刻に遅刻しないために見込む余裕時間が短縮する効果【約2.6億円※】 ※は、供用後50年間の便益額として試算した値(参考値) 定性的な効果 ③地吹雪による通行止めの解消や視程障害の改善 ・冬期の交通障害が解消され、交通の安全性及び確実性の向上が期待される。 (当該事業区間の通行止実績：6回/7年) ④農水産品の流通効率化 ・釧路・根室地域で生産される生乳や、水産品の流通の効率化が期待される。 (釧路・根室地域の生乳生産量：約130万t/年) ⑤高次医療施設へのアクセス向上 ・高度な医療機能を有する釧路市の高次医療施設(市立釧路総合病院等)への冬期搬送の安全性向上、患者負担の少ない安定した搬送が期待される。(周辺4町から釧路市への救急搬送282件/年) ⑥日常活動圏中心都市へのアクセス向上 ・周辺地域から釧路市へのアクセス向上により、地域住民の日常生活がより便利になることが期待される。 (周辺4町の釧路市への通院依存率約2割) ⑦重要港湾へのアクセス向上 ・重要港湾釧路港へのアクセス向上により、物流の円滑化や冬期における安全で安定的な輸送ルート確保が期待される。(周辺4町への石油輸送は釧路港から約10割) ⑧CO2排出量の削減 ・当該道路の整備により自動車からのCO2排出量304(t-CO2/年)の削減が期待される。					

関係する地方公共団体等の意見

地域から頂いた主な意見等：

釧路市など1市6町1村の首長等で構成される北海道釧路地方総合開発期成会等より早期整備の要望を受けている。

知事の意見：

道内の高速交通ネットワークを形成する高規格幹線道路、地域高規格道路など重要な路線であり、交通混雑の解消や物流の効率化を図ることにより、道民生活の向上や経済・社会活動の活性化に寄与することから事業の継続が必要である。

事業評価監視委員会の意見

当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断するが、事業費が大幅に増加している事業があることから、今後は以下に留意されたい。

1. 調査を充実させ、事業費の積算精度を向上させるよう努めること。
2. 事業費の管理を適正に行うとともに、その抑制に努めること。
3. 早期供用開始に向け、事業の促進に努めること。
4. 定性的な効果として、道路整備が観光振興に及ぼす効果について検討すること。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

- ・一般国道272号上別保道路が平成19年度に事業化
- ・釧路港より道外へ生乳等を輸送する高速輸送船が平成18年度に大型化。

事業の進捗状況、残事業の内容等

平成19年度に工事着手して、用地進捗率70%、事業進捗率58%となっている。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

引き続き、早期供用に向けて事業を進める。

施設の構造や工法の変更等

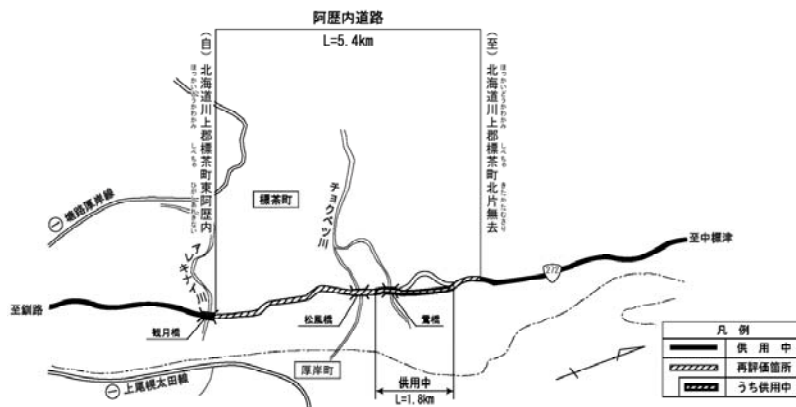
詳細調査結果に基づき基礎形式を杭基礎とするなど橋梁下部工の構造を変更、有識者の意見等を踏まえ水路兼鹿横断函渠を設置するなど環境保全対策を追加、横断管渠の整備に際しオープン掘削による新設から新技術である管更正工法による既設横断管渠の活用に見直しなどの変更を行っている。

対応方針 事業継続

対応方針決定の理由

事業の必要性・重要性は変化なく、費用対効果等の投資効果も確保されているため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。